

02 ワインツーリズムの実践

発表者：佐々木めぐみ（生命環境学部 地域社会システム学科3年）、松尾隼太郎（同学部 環境科学科2年）
白倉美雨・福田彩乃（同学部 生命工学科3年）、有賀廣弥（工学部 土木環境工学科4年）

担当教員：奥田徹、久本雅嗣、斉藤史恵、大山勲（生命環境学域／ワイン科学・地域計画学）

協力講師：大木貴之、鶴田真也、須藤治憲（（社）ワインツーリズム）

■ 取組みの概要

「ワインツーリズムやまなし」はワイナリーを巡ってワインを楽しむイベントです。このイベントへの参加、企画、実践を通して「地域の課題の探索とその解決法」について体験し熟考することを目的として取り組みました。

ツーリズムは地域外からお客さんが来て地域にお金を落としてくれる経済効果によって地域を活性化することのみと捉えられがちですが、このワインツーリズムの取り組みは、外からのお客さんとのコミュニケーションを通じて**地域の生き方をよりポジティブなものに変える**ことを目指す取り組みであり、**ワインとツーリズムの力を借りた「まちづくり（地域づくり）」**でした。ワインツーリズムはワイナリー・ぶどう農家・地域住民・飲食店・朝市・NPO・行政・大学・学生が互いに**協力しあって「地域が持っている魅力を引き出し地域の誇りを回復させ、地域のコミュニティの中の信頼関係を構築する「まちづくりの活動」**であり、単なる観光イベントではありませんでした。「**ワインの魅力（テロワール・ワイン文化など）**」とは何か？「**地域を活性化する**」本質とは何か？ **地域活性化はどうやって解決できるのか？**を実践活動を通じて理解を深めました。

■ 課題解決の方法

事前学習・準備

■ **講義・講演会・事前学習**: 企画者からツーリズムの概要、狙い、活動の注意点などを学ぶ（山梨大学で5/14講義、10/30講演会）



■ **準備**: スタッフと打ち合わせ（エリア会議10/29）やバス停などの準備↓



■ **参加者への地域魅力の情報提供**: ワインツーリズム来訪者に地域魅力を知ってもらうため、ワイナリーを巡る歩いて快適な道・ルート・立ち寄り先の調査を行いました。調査の成果はSNS情報発信に反映させました。（7月～10月に、グループで現地調査・情報発信。この取り組みは11/21NHKで放映されました）



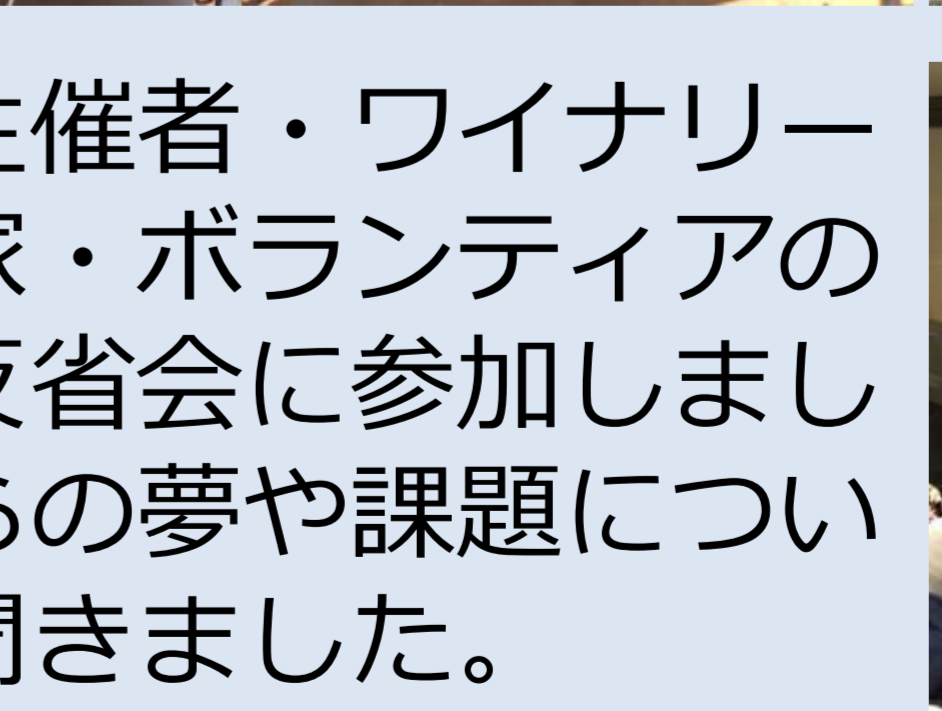
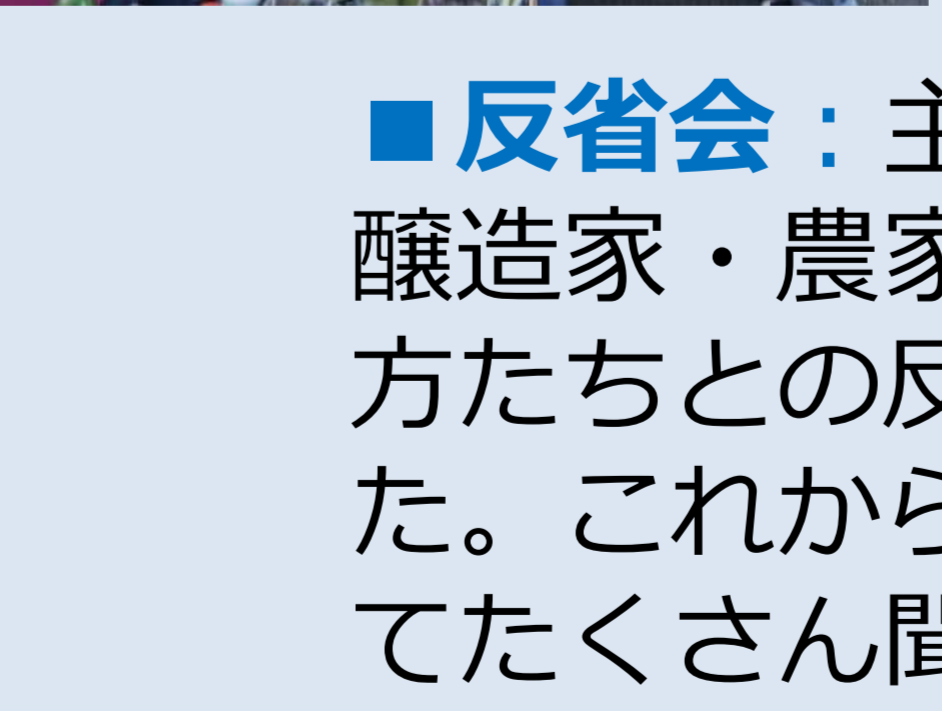
ワインツーリズムやまなし 当日の活動と後日のふりかえり

4/7（笛吹：参加学生5人：次年度からの継続参加学生）5/25（勝沼：参加学生23人）11/9（甲府・笛吹・山梨：参加学生20人）11/10（塩山・勝沼：参加学生18人）11/11（甲斐：参加学生3人）の5回開催されました。もてなす側のスタッフを体験しお客さんの質問に答えたり解説しました。午後のもてなされる側として参加体験し課題を考え、歩行環境の調査も行いました。

■ **スタッフとして体験**: 主催者・参加者と業務を通じて交流。住民・有志のボランティアの方々と協力して臨機応変に活動しました。



■ **参加者としてツーリズムを体験**: 参加者の視点で地域の魅力を再発見。体験しながら醸造家や住民のお話を聴いたり参加者の様子を観察し、イベントの実際を理解し、効果や課題を考えました。



■ **反省会**: 主催者・ワイナリー醸造家・農家・ボランティアの方たちとの反省会に参加しました。これからの夢や課題についてたくさん聞きました。

■ 活動して学んだこと（レポートを提出しました。その中から特に「ワインツーリズムの魅力の抽出」について示します）

■ ワインを作ってる人、それを広めようと努力している人、そのワインを飲み山梨に足を運んでくださる人、様々な人たちの力で山梨のワインが成り立っている。■ その土地でしか感じられない人の温かさ、町並みや雰囲気が魅力。■ 住宅街や町並み景色などの、ワインが製造されている地域の雰囲気を肌で感じることができるところがワインツーリズムの魅力。■ 普段は気づかないような風景や道に意識が向き、山梨の良さ、地域の良さを改めて感じさせてくれることが魅力。■ 地域の方が見所をしてくれるなどのコミュニケーション。■ 運営者・ボランティアの方たちの熱い思い。■ ワインとその周辺を知ることによって、好奇心がさらに生まれて、リピーターに繋がる魅力があるのではないかと。